



マーシャル方面遺族会
 (旧クエゼリン方面戦没者遺族会)
 中央区日本橋蛸殻町2-1-11
 泉商事株式会社内
 電話 東京 (661) 6241
 振替口座東京 93487 番
 編集兼発行人 浮田信家

美 中 の 美

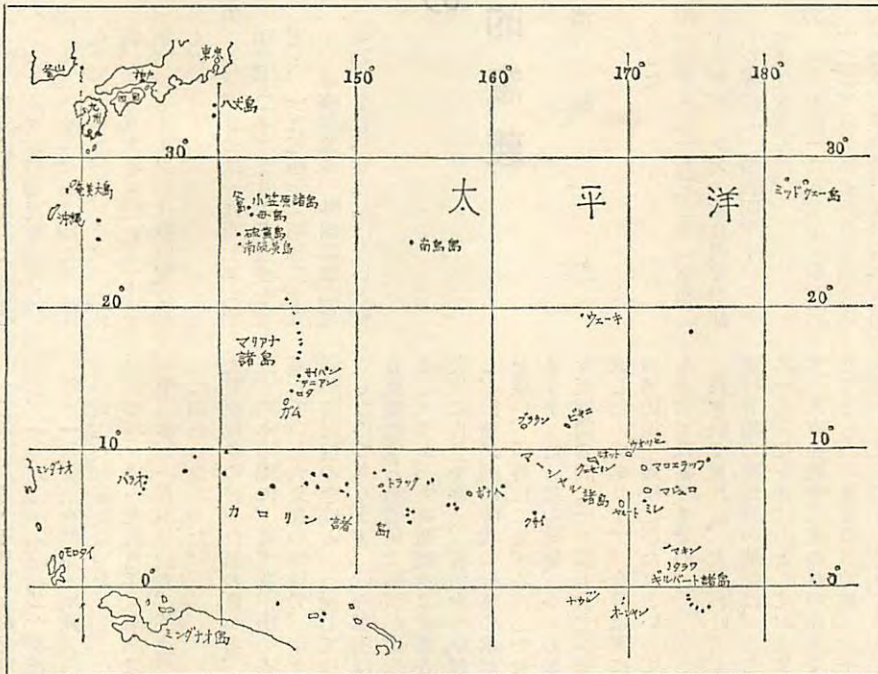
松 平 永 芳

大東亜戦争一敗地にまみれ、好むと好まざるとに拘らず、わが国は大きく変動致しました。その中で、真の文化、科学技術の向上発展は、私共の心から喜ぶ所でありませんが、他面、占領政策の行き過ぎ乃至は同胞の思想対立の激化により、従来、大半の国民が貴しとし、捨て難しとした、わが国独自の伝統の美、即ち思想・人情風俗・国土の美しさ迄が、次々に破壊され、破棄され、今日に至るも、その情性留まる所を知らないことは、洵に遺憾なことと言わなければなりません。

私は、科学技術の所産による美しさより、人の心の中に暖かく保ち続けられる人間関係の美しさの方を、より貴いものと考えますので、去る三十八年発足した本会の、会員各位の美しく暖かい御心のつながりを見、大いに驚き且つ喜び、篤志会員として、微力を捧げさせて頂きたいと決心致したのであります。そして、微塵の打算もなく、御互いに手を取り合って進まれる皆様方の伍間に列し、更に感銘を深め、この会の団結こそ美中の美と讃歎して已まないものであります。なお、靖国神社に於ける盛大な祭典・会の拡大・自衛艦による靈砂の輸送等の実行、近々現地方面への御遺族派遣、慰霊碑建立等の目的の成立、洵に御同慶に耐えず、これ等は、役員各位の御尽力の賜であると同時に、会の純粹さと美しさが、その根源であつての事と確信して疑いませぬ。純粹な美しさは、何人にも邪悪な批判の余地を与えず、万人に訴える力を持つものであります。

最後に、美中の美とも言うべき、この美しい会の益々御発展あらんことを心から御祈りして擲筆致します。
 (本会篤志会員・陸上自衛隊資材統制隊副隊長)

日本から マーシャル諸島まで



目 次

- 美中の美……………松平永芳(1)
- 大東亜戦争の歴史的意義……………清瀬一郎(2)
- 本年二月六日の祭文……………林 茂清(3)
- 昭和四十二年春京都での慰霊祭の計画について……………(3)
- 会員だより……………(4)
- クエゼリン環礁警備日誌(2)……………有馬成甫(6)
- 英霊にお守り頂いた私達……………千葉秀夫(7)
- 遺作「随分大きな島」……………故兵曹長 衛藤二六(8)
- 「軍事郵便貯金払いもどし」について―更に一九二八名判明……………(9)
- 本会三年の歩み……………(10)
- 当面の計画……………
- 現地訪問・慰霊碑建立……………
- 靈壘奉安……………(11)
- 寄附者芳名……………(13)
- 決算報告……………(13)
- 事務局だより……………(16)
- 本会役員及び篤志会員名簿……………(16)

大東亜戦争は世界の歴史上、実に大きな事件であります。かような重大事件の意義というものは、其の直後ではとても判定できるものではありません。よくても五十年か、百年近くたってはじめて最後の判断が可能であります。しかし今日既に終戦から二十年の歳月を経ましたから吾々も吾々なりに其の意義について予定的に探求してもよからうかと思えます。

当時、吾々は東大東亜建設、東亜共栄圏の造成を唱えました。これは無駄なことであったのでありましょうか。

一七五七年(宝暦七年)ブラシンの戦勝で英国勢力が印度を圧し一六〇二年(慶長七年)オランダがジャワ、スマトラを独占し、また夫の一八四〇年(天保十一年)以来、今の中共、当時の清朝の政治は欧米勢力下の半植民地となっていた。二十世紀に至り、この不自然は修正されなければならぬ状況になつて来た。ことに東亜のうちでは、早く進んでいると目された日本においては、大東亜の解放の思想が発生したのは必ずしも不自然ではなかつたのであります。戦争指導の功拙のことは今論じませぬ。

この戦争を不正な動機より起つた侵略戦争であつたと一概に排斥するのはあまりに一方的である。しかし兎に角、昭和二十年(一九四五年)八月十五日に我が国は敵

の条件を認めて和を講じたのであります。(無条件降伏ではありません。ポツダム宣言中第六項より十三項までは降伏条件であります。)

日本降伏より後に、東洋で起つた事柄は歴史上甚だ示唆に富むものがあります。今これを簡単に述べてみましょう。

(1) インドネシアでは日本が休戦を決定した一九四五年(昭和二十年)八月十一日(十五日より前)ジャカルタの国民大会で独立を宣言した。その後数年間、

年(昭和二十一年)十一月独自の憲法を作りフランスより独立し、一九五四年(昭和二十九年)ジュネーブ休戦協定を結んだ。

(4) 南ベトナムは一九四九年(昭和二十四年)三月フランスと休戦、一九五六年(昭和三十一年)ジュネーブの休戦協定を結んだ。

(5) カンボジアは一九四七年(昭和二十二年)五月六日憲法を制定し、一九五四年(昭和二十九年)軍事同盟や、外国軍事基地条約を含む協定は結ばないと宣

連邦内の共和国となつた。(9) インドは一九四七年(昭和二十二年)八月十五日独立が実現し、一九五〇年(昭和二十五年)一月憲法を制定し英連邦内の民主共和国となつた。

(10) ビルマは一九四八年(昭和二十三年)一月四日独立、英連邦に加わらなかつた。

大東亜戦争の終つた其の日から、五、六年の間に、曾て我が国の占領していた大東亜の地域で、十ヶ国が殖民地の大きはんから脱して独立したのであります。此の事実は大東亜戦争と無関係で解積が出来ましようか。大東亜戦争は東亜各民族に自覚を与え、自信を呼び起し、旧殖民国に時代の推移の承認を強い、新時代に応ずる決心をせまりました。其の結果、かくの如き短期間の間に十ヶ国も独立が完成したのであります。今日は実に旧殖民地主義は亡びたりといつても過言ではありませぬ。

長き眼で見れば、人類わけでも東洋各地の諸民族の地位は、ここに一大変化を遂げんとしております。大東亜戦争は実に其の序曲でありました。東亜の各地域、太平洋の各島嶼にて命を抛つて働かれた英霊の命は決して無駄ではありませぬ。諸英霊は人類の歴史の上において尊い功績を挙げられたのであります。後世の史家は恐らく之を認めるに相違ありません。終戦後永い間、我が国は敵国

大東亜戦争の歴史的意義

清 瀬 一 郎

旧宗主権国オランダとの間に独立戦争と独立論争を続け、遂に一九四九年(昭和二十四年)九月から、ハーグで円卓会議を開き、其の年の十二月二十七日オランダは正式にインドネシアに主権の移譲を認めた。

(2) フィリッピンは終戦の翌年である一九四六年(昭和二十一年)七月四日米國よりの独立を認められた。(それより先、日本占領中にも我が国は独立を認めた)

(3) 北ベトナムは同じく一九四六

司令官の占領となり、我が国人中にも其の指導に追随する者多く、正しい認識が失われんとするのを悲しまざるを得ませぬ。以上の如く東亜解放の事業は英霊諸兄の犠牲によりその実を挙げましたが、遺憾なのは戦後一九四九年(昭和二十四年)に北京において共産主義の政府が成立したことであります。これは実に世界における重大事実であります。彼等は自己の国、自己の同胞を共産化するを以て満足せず、世界の赤化を終局の目的として行動しております。今日南北ベトナム、ラオス、インドネシアの苦悩は実にここから出発しております。其の他の東洋各地もこの心配より免れることは出来ませぬ。幸に我が国は戦後異常の経済、技術の発達を見ました。我が国の今日及び今後の實力を以つて東亜各地の同胞を助け、英霊各位の遺志を遂げることが生き残つた吾々並びに吾々を継ぐ者の大きな責任でありましよう。

全国戦争犠牲者援護会会長・元衆議院議長・三月二十四日援護会定期総会のため自ら執筆されたもの。(援護会より転載了解済)



祭 文

謹んで海軍中将秋山門造之命以下五、四三三柱、陸軍少将阿蘇太郎吉之命以下一、二七三柱及びその後地域の拡大によって加わった陸軍中将西田祥実之命以下七、一三一柱のみ霊に申し上げます。
 あなた方が、その任地マーシャル諸島のクエゼリン島、ルオット島、ブラウン島及びウオッセ島において壮烈なる戦死を遂げられてから、早や二十二年の星霜が流れ、仏徒は所謂二十三回忌の法要を営むという年を迎えたわけでありませう。

我々遺された者は、戦後二十年という長い間、あなた方の戦死の情況はおろか、その場所さえも判らず心淋しく思つておりましたが、昭和二十八年に本会が生れてから會員一同の努力によって、あなた方の最後を知る事が出来、本年は既に三回目の慰霊祭を行うに至つた次第であります。
 今年も北は北海道、南は鹿児島、宮崎に至る全国各都道府県から、四百名を超すあなた方の肉親が対面のため靖国神社に参集しました。特に静岡県御前崎町からは町役場の方が御同道、打ち揃つて御参拝今夜は近くの九段会館で想出ばなしに明かす趣、この様子悦んでお見届け下さい。

その後私たちは篤志会員の御指導、御力添えを受けながら、我國の戦史は申すまでもなく、あなた方の遺された通信や日記、写真・帰還者の諸報告、さらには米国の戦史等により調査を續けておりますが、それが明らかにされればされる程、あなた方の勇戦奮闘そして苦戦の状況がうかがわれ、本当に御苦勞であつたと、思いを深める次第であります。

我々の願ひは米國にも通じて、クエゼリン、ルオット及びウオッセ三島の靈砂が海上自衛隊の手により本会に届けられました。

あなた方がその上で訓練し、或いは郷里に想いを馳せて憩いのひとときを過し、最後はあなた方の尊い血汐をもつて赤に染めたてあろう靈砂が、自衛艦あまつかぜによつて護送され、肉親のもとに歸られたのであります。又サイパンのゴッディング高等弁務官及びクエゼリンのクラーク司令官からはあなた方の眠るクエゼリン、ルオットにおける日本人墓地の全景写真を送られ、そちらの様子を、まああたり知ることができました。他の島の靈砂及び墓地の写真も同司令官に要請しております。次に昨四十年の秋からウオッセ島の遺族中本会への入会希望多く、同じマーシャル群島での御戦死故ころよくお迎えし、既に一八〇〇人の同島の御遺族に連絡をとり、本日もこの中五十余名がここにまいつております。

このように日一日とあなた方の戦死の地に歩いて行けたような思いのする今日この頃であります。あなた方の尊い犠牲は、大きく日本の復興に貢献し、オリビックも世界注視の裡にやりぬいて大きな成功をおさめました。遺族に対する扶助料も次第に増額され、二十年祭に報告の叙位、叙勲も既に発表されたに聞きます。ただ遺憾に思いますことは今もつて、墓参の了解を得られないことでもあります。しかしわれわれ全員の念願するところであり、必ず実現すると信じます。

まづ靈砂を迎え、写真を入手し次は故国の資材を送つて、み霊の宿る碑を建立し、よつて、あなた方の忠魂を後の世までお慰めし、顕彰したいと考えております。あとしばらく我慢を願ひます。

只今から一同本殿に参進し御対面いたします。元気に仲良く過しております様子をお喜び下さい。今日来られなかつた多勢の會員から礼拝の御依頼があり、或は来年は必ず来るぞとの伝言のありましたことを御報告いたします。

昭和四十一年二月六日

クエゼリン方面戦歿者遺族会
 会長 林 茂 清

昭和四十二年春京都での慰霊祭の計画について

本会は発会以来、会則で定められたとおり毎年二月六日靖国神社で慰霊の祭事を行い又同日定期總會を開催しております。今後この慰霊祭と定期總會はながくつづけて参りたいと思ひます。

それはそれとして日本の行事は何かというところ東京だけに限られがちである。會議の性格によつてはそれも良からうが、本会の場合、たまには他所例えは京都などで行つても良いではないか。という熱心な御提案が京都から出されました。なるほど四國・九州の方々のためにも検討すべきことと考え、本部役員研究の結果次のような案を立てて見ました。

- 一、とき 昭和四十二年五月中旬
- 二、ところ 京都市外宇治宇治川沿
- 三、行事の構想
 - (イ) 第一日の午後京都市外宇治の靖国寺附屬宿泊所に集合・夕方慰霊祭。帰還者の講演。關係ある映画・スライド観賞
 - (ロ) 第二日午前バスで京都見物。午後は適当な時から自由行動。夕方は靖国寺で夕食を共にし懇談会。一泊。
 - (ハ) 第三日朝食のあと解散。

- (イ) 宿泊設備の關係上一回五十名参加希望者三百人と予想し、
 - 第一回 五月十一日(土)
 - 第二回 五月十三日(月)
 - 第三回 五月十五日(水)
 - 五月十五日(水)
- 四、経費
 靖国寺着までの旅費その他費用
 靖国寺で解散以後の費用はそれぞれ各自御支払い。
 靖国寺着から第三日朝食まで二泊の宿泊料は一人約一〇〇〇円(一人一泊二食付五〇〇円内外の割です)会にいただきます。
 第二日の昼食とバス代は別に実費を申し受ける予定です。
- 五、雜件
 イ一回五十人の組合せを、地方毎にまとめるか、小人数づつ全国各県の方を混ぜるか、戦死者の部隊別にするか。御希望によりきめます。
 ロお寺ですから充分なサービスは出来かねる由です。炊事、配膳、掃除、床のあげおろし等會員に願ひいたします。
 ハ参加希望の方は七月末までに御申込下さい。今後具体的の細い計画は、七月末までに御申込みになった方だけにその都度お知らせします。従つて今ははっきりしないが参加希望の方は一応お申込下さるのがよいと思ひます。

会員だより

(大阪府) 義弟 西山 正明

この度は突然の申込なるに早速お送り頂きまして有難く厚く御礼申しあげます。写真までご同封下さいまして本当に感謝いたしております。両親も嬉しく、渡せば一日でも手から離さないことでしょう。見える様です。

皆様方の御努力の程を考えますと、何んとしても心苦しく、ご用が有りますれば出来ることはさせて頂きます。これより両親や兄弟に渡してやり、一同供養をいたします。島で戦死の皆様の霊に対しても。

(戦死者) 辻本富夫 技術中尉
西山氏はその義弟・同志社
大学商学部後援会々長

(新潟県) 妹 阿部リク子

二十年以上過ぎ去った今まで、何処かの孤島で生きていたのではないかと、か細いのぞみを持って生きてまいりました。兄が戦死したというより、ふっと消息が絶たれた不思議な想いなのでございます。

マーションナル諸島方面で戦死という内報を受けたのが二十年の五月

(東京) 弟 屋間 楽平

まごころの
みたますらぐ
靖国の社

クエゼリン方面戦没者遺族会
慰霊祭に寄せて

二十日、かつて涙を見せなかつた父の背が小刻みにふるえていたのを昨日のこのように思い出され

「環礁」を送っていただき當時の様子など知ることが出来、新たな涙を流しました。遺族のために御熱心にこんな有意義なお仕事をしていただき心から感謝いたしております。

数え年二十二年才。まだ少年のように、笑うとえくぼの可愛い兄でした。最後の十八年八月の末に帰ったとき、軍歌の楽譜を沢山もって来てオルガンをひきながら私と妹に教えてくれ一緒に歌ったこと、任官したら南方に行けるとい

い野菜の種子を用意したのに、北海道で残念だと言ったこと、み海道で残日のことみたいです。その夜飲れたままついに手紙一つ参りませんでした。何時頃千歳から南方へ移ったのでしょうか。知りた

い日か来たら永住しようと思つていた父母も五年前に亡くなつてしまいました。早くその椰子の繁る珊瑚礁の島へ行く日が来ることを願って居ります。

(東京都) 妹 和田 正江

先日はクエゼリンのお写真を送り頂き本当に嬉しく感無量の思いで拝見させていただきました。

又多くの方々の御好意で現地の砂も届きました由、横須賀に出席いたしました実家の兄(三ツ木)か

ら様子を聞き「やつとここまで」とほっとした思いです。

あれこれ想像いたしておりました。が、お送りいただいた写真を拝見し、きれいに整理された墓地の様子に慰められます。戦死した兄は写真が大得意で沢山送ってまいりましたが玉砕の直後自宅の戦災で

一枚も残っておりません。しかし鮮やかに覚えております南の海と椰子の木々を先日の写真にも見ることが出来、当時を偲んでおります。

当時の写真を沢山お持ちの方もいらつしゃいますと存じますが、又いつか機会がありましたら、それらをもちよつと拝見させて頂ければ或は故人の写真を見つけることが出来るかもしれないと思

いましょうが、機会がございましたら、よろしく願ひ致します。写真を拝見しますと、あきらめておりました「現地を訪れてみた

い」という希望が、又あきらめきれず「というは皆様と同様と存じます。その日が一日も早い様祈っております。

(横須賀) 父 熊谷 謙吉

過日は靈砂引渡式に参列させていただき感激いたしました。全国何百万かの遺族のうちこんなにくまれた遺族は他に居ないので

ないかと深く感謝いたしております。これも本会本部の筆舌にはつ

何ばかりか、亡き息子も良き死場所を得たと満足していること存じます。

さて靈砂領収書を早速お送りせねばならぬところ、実は亡謙一の兄弟姉妹(九人)全員集つたところで開封したく本日まで開封せずに居りましたため大変失礼いたしました。

尚一同写真を拝見し未だ見ぬ南海の島に想いをはせ、話に花が咲きました次第でございます。本当にありがとうございます。

(東京) 兄 森田 富市

拝復 早速クエゼリン島の靈砂御贈惠下され有難く拝受いたしました。尚同島にある墓地の写真まで賜り墓参がかなえられたような

気持で感謝に堪えませんが、今今後共会の御活躍をお願いいたします。

(香川県) 長男 秋山 正清

菊花の薫る候となりました。今度クエゼリン島の靈砂を御惠送賜り有難く頂戴いたしました。早速神棚に御祀り致しました。又ク

エゼリン島日本人墓地の写真もわざわざ焼増しの上御惠贈賜り有難う存じました。海行かば水漬く屍を覚悟して居りました海軍々人の遺族として、其の肉体そのものが化した土、其の血を流した砂が家にお祀りする事が出来ました事、感慨無量のものがあ

ります。この靈砂には亡父も含めクエゼリン島戦死将兵の霊が魂魄が留ま

(栃木県) 妻 神山 さく
南海の
花と散りにしつはもの
功は永久に
国の石づえ

遺族の方々の感激も如何ばかりかと拝察いたします。本当に有難う存じました。今回のことの発案から計画、実行に当られた沢山の方々の御誠意、御努力、御苦勞に対してはただただ頭が下がるのみ、深甚の敬意と謝意を申し上げて、重ねて厚く御礼申し上げます。

(横須賀) 妻 大塚 米子
お願いいたしましたところ早速御丁寧な御便りまで添えお聞き下さいましたこと誠にありがとうございます。涙の出るほど嬉しく生前の主人の便りのように何度も何度も拝見させていただきます。あの感激は終世忘れることはできません。先年からの遺骨箱をいただきましたあとの悲しかった気が持、思いも新しく走馬灯のように色々の事が次々と想い出されまして、一人で昔の波止場の処まで足が運びまして、つい日の暮れるのも忘れて時間を過して参りましたが、何のお役にも立たないと思

いますが何か私らにお手伝いの出来ますことは、どうぞ御用命下さいますようお願い申し上げます。

(広島市) 父 浜本 米一

昭和十八年十二月「お父様、お母様。お元氣ですか。私も至極元氣に軍務に励んで居りますから、御安心下さい。私も来春桜の花の咲く頃には帰って、御両親のお顔

を拝見させていただきます。

(ウオツゼ)

も見られると思つて居ましたが都合によつて当分帰る見込も付かなくなりましたのでどうか元氣で待つて居て下さい」という便りが最後となりました。この度靈砂を送つて戴いて子供が帰つたような思ひが致します。早速仏前にお供えし本日忌日に当りますので、亡き母親のお墓に納めました。母も嬉んで迎えたことと思ひます。私の思ひを一首書いて見ました。笑つて読んで下さい。

去りし日の面影しのび仏前に
お砂そなえて涙あらたに

若者の御靈お砂ともどもに
御国の空に帰りに来たらん

(徳山市) 妻 小住 龍

例年になくお暖かい日々が続きます。今日も窓ガラス越しに、外を眺めていると何だか雲雀の音が聞えて来そうなお日和でございます。

過日は大へんお世話様になりました。役員の皆様方の御芳志もたいなく感謝の心で一ぱいでございます。

私ははじめて皆様方と御一緒になれました。今年こそは皆様のなるべく多くの方々とお話し申し上げたいと存じまして四日の夕刻から家(註山口県徳山市)を出ました。九段会館に着きましたのは、五日の朝十時すぎでございます。でもその時は既にルオット島で、お子様を亡くされた御遺族がはるばる九州の宮崎からお見えになつていました。

受付(註・東京在住会員の方々)

で待つていました間も、その方のお話を伺い、また三階のお部屋では北海道、福岡、奈良、宮城各県の御遺族に様々なお話を聞かして頂きました。二晩も泊りまして、広島、群馬、新潟、京都、静岡、あたりのクエゼリン・ルオット・等の御遺族のお話をうかがい様々な事を知り、また感じました。

女学校一、二年を香川県の観音寺の三豊高女で学んでおりましたので、秋山様ともなつかしく、お話をさせていただきました。

この度の上京は短い時日でございましたが、心に強く深い収穫を得ました。わけても靖国の社頭であの感激はとてつたない筆先にかかせることはできません。明かるく、和やかな早春の日さしの中に、平和の使者鳩がさつと舞い上がり、戦いの頭を知らない人たちには二十数年前の事など想像すらできないでしょう。

南島に神ありませし

ますらおの
ほらからの人

クエゼリン方面戦没者追悼会
慰霊祭に参りし

泉 平

いつの日にか帰らん
山は 青き ふるさと
水は 清き ふるさと
とつまる想いでうたつた遺族の胸裏には、在りし日の夫・子・兄弟の姿がちらつき、帰りたいかたであらう心情を察し胸ふさがる想いでしたのと、また

海行かば みづくかばね
山行かば 草むすかばね
大君の 辺にこそ死なぬ
かへりみはせし

と国の、み楯となつて、敢然と護国の鬼と散華したのである君を想う二つのものが、往き来するのでした。

近く神前にぬかずけば一同寂として声なく、ややあつてすすり泣きの声のみが静かにおそやかな神殿にしみ入るような一時でした。神前をあとに控室にむかえば、廻廊のきしる音のみが神域にしみ入るようでした。お互いの遺族はなき人たちを通じて今は共にマールシャルの土と化したことをとおしてわれわれ遺族の団結を痛感しました。

この感激と団結のお導きを頂きました役員の皆様へ深く感謝して筆をおきます。

(宮崎県) 妻 外山 由
二月二十八日附
御送頂きまし
た靈砂は翌二月
二十九日確かに

受領いたしました。二十数年の間何の遺品もなく何とかして亡き夫達の玉砕の地の土の一かけでもと念じつづけておりましただけに、この度靈砂をお受けいたしましたとき胸のつまるような感で一ぱいでした。在りし日の主人の面影が偲ばれて涙を新に致しました。今度こそ祖国のなつかしい墓地に安らかに眠つてくれることと存じます。

遺族会役員の皆様本当に有難うございました。

(青森県) 母 福原 たけ
この度遺族会各位様の御同情によりまして靈砂ならびに環礁お送り下さいまして誠に有がたく厚く御礼申し上げます。

十郎戦死後二十年今までウオツゼ島の場合只々知りたく胸一ぱいでございました。それを今環礁によりまして、くわしく、わかり、さっぱり致しました。

お送りの靈砂は、十郎の遺骨だと思われ、しつかと、握りしめ、涙が新たにこみ上げました。

遺族会で行われました二十周年記念慰霊祭に参加出来なかった事は、残念でございました。何も通知がありませんのでわかりませんでした。今後は会員として何卒よろしくお願いいたします。

形見として、永遠に、保存したき所存でございます。

(鹿児島) 妻 野中 ヨネ
南の種子島では椿の花ざかりでございます(一月二十五日発信)何時も「環礁」をお送り下さいまして、繰り返し／＼家中の者が読ませていただいております。心はずいぶん常々靖国神社の大鳥居に通つていますけれども本年も二月六日の年忌祭には都会により出席できませんので残念に存じております。心ばかりのお賽銭をお送ります。

父の顔 一見しない 次男坊
大学三年 大男となり
夢に見し歌にうたいし九段坂
涙あふれつ大鳥居見上ぐ
(和歌山県) 妻 谷口 たき
寒ささびしき折柄遺族会の皆様様お変わりございませんか。過日御通知いただきました書類、大切にしまいこんでしまつて早く送金させて頂かねばと思ひ乍ら見あたりません。二月六日も追つて来ましたので誠に勝手ながら二千円封入いたしました。なご別袋の分は故人が戦地において苦しい中に、して下さった貯金です。会の方々の御厚意によつて手許に返していただきましたが私共にはどうしても使えませんが、故人の氣持を、お受け取り下さいますようお願いいたします。二月六日には今年も残念ながら参加させていただけません。来年こそ皆様と共に靖国にお参りできまますようにと祈り乍ら失礼いたします。

クエゼリン環礁警備日誌 (2)

文学博士 有馬成甫

昭和十八年

五月二十五日(火)曇、クエゼリン本島砲台「哨戒射撃法」を定むる彈幕射撃の方法を確立せるものなり。山国丸クエゼリンを出港しウオッチェニに向う途中、哨戒機北九度(分、東一六八度三〇分)にて敵潜水艦を発見せるにつき山国丸は引返す。本島嚴重の警戒配備に就く。古賀連合艦隊司令長官の訓示あり。

五月二十六日(水)晴、午前三時第四・第三砲台を巡視す。六根司令部に行く。第四艦隊命令にて防空壕急速整備をなすこととなる。午後彈薬庫の実情を巡視す。第四艦隊作戦命令を受領す。故山本五十六元帥の国葬は六月五日、日比谷公園にて行われ墓地は多摩靈園と定めらる。機関参謀(六根)小住輝雄大尉着任。

五月二十七日(木)晴、午前三時四十五分前機関参謀後藤藤準一大尉の出発を見送る。キョウ水道の導灯につき視察に派遣す。午前七時軍艦旗掲揚あり「君が代」衛兵礼式を行なう。午前八時四十五分皇大神宮に対し遙拝式を行なう。総理大臣伊勢に参拝の時刻なり。次で古賀連合艦隊司令長官の訓示を朗読し、山本元帥の戦死に就き訓示をなす。クエゼリン神社に参拝す。昨日の大艇便にてトラック航空隊司令より來信。中に家信(五月一日・五日・十日)あり。嬉し。

五月二十八日(金)晴、午前三時第二砲台を巡視し各種の教練を実施す。次で重要施設を見回る。各砲台長を集合し、クエゼリン本島砲台心得、クエゼリン本島哨戒射撃法制定につき説明をなす。橋本才輔大佐のトラック島よりの書信を受く。

五月二十九日(土)曇又雨、午前六根司令部に行く。隊内各部を巡視す。本日より築城特別班を作り耐弾式彈薬庫等の設備・構築に着手せしむ。ルオット・ミール水道及びミール島の木造見張所、本日完成。夜郵便局長を呼び「山姥」・「鉢ノ木」を誦う。黒暗。雨蕭々たり。

五月三十日(日)午前三時第二見張所に登り日の出を拝す。築城作業を巡視し、中部及び南部地区、司令部に行く。北方戦況思わしからず、愈よ決意を固うし当方面の戦備を堅固にせんとす。午後五時大本営発表アツツ島、山崎部隊、二千余名玉碎すと。

五月三十一日(月)晴、軍需部長を訪い、ドラム罐の格納、防護土塁の構築につき打合せを行う。各見張所に糧食八カ月分及び飲料水自給設備を完備するよう発令す。耐弾式彈薬庫の工事を巡視し、その着々進捗する様子を見る。午後一時五分敵潜水艇ノルト島南東口外八連の地点に出没する旨の情報あり。

六月一日(火)晴、午前三時クエゼリン神社に参拝祈願。築城工事を見回る。舟艇点検を行なう。鷹寿丸(二二六屯)空気圧搾脚筒修理のため昨年九月より動かさず、第一福神丸(一五三屯)船長以下大いに元氣、第二不動丸(七七屯)修理のため内地に帰り、最近帰港、夕刻大島島より諏訪丸遭難者五〇名来る。

六月二日(水)曇、戸山大佐來訪、乾祥丸、福山丸の兩船入港。運航指揮官富田賢四郎大佐。福山丸は昨年余が砲艦長として乗艦し居りし船なればなつかし。主計長石橋和雄中尉着任。新田両主計長の送別歓迎小宴を催うす。

六月三日(木)曇、前主計長を見送る。上高原副長をルオットに派遣し、砲台を巡視せしむ。富田大佐福山丸船長加藤俊君及び機関長長島成臣君を招き、スキヤキ会を催す。皆々懐旧談に花を咲かせ大いに悦ぶ。

六月四日(金)晴、早暁、福山丸船長、機関長を伴い、クエゼリン神社に参拝す。午前四時阿部司令官、大島島巡視のため出発せらるるを見送る。第一・第二砲台を巡視し教練を見る。山本元帥国葬につき軍艦旗を掲揚し、次で半旗の礼を行なう。築城作業は本日朝食のみにて午前午後共休む。五月十八日より初め、休みなしに続け、初めの休憩なり。各砲台彈薬定数の三倍に達する迄の不足額を横須賀軍需部に請求す。午後一時三十分より築城施設に伴なう研究を行なうため各砲台長、陸戦科士官を集合す。阿部司令官大島島より帰らる。夕食後訪問す。

六月六日(日)晴、午前三時第三砲台を巡視、教練実施を見る。ラリック列島酋長(アイリソララ村居住)烈忠安(レッチェウ、ラアン)及びクエゼリン村長マギ一同道にて伺候のため来る。佃条次郎大佐(同級生)の長男齒科医を夕食に招待す。陸軍一個連隊歩兵三個大隊及び戦車一個中隊、この方面に増派せらるることなれりとの報あり(後にヤルト・クエゼリンに分駐せしむとの報あり)その受入準備を講ず。

六月七日(月)晴、曇、築城作業につき午前三時陸戦隊の宿舎、發電機室、陣地附近の仮兵舎位置新道路位置を見回る。支那に於ける仏租界は、去る五日行われたる漢口・天津の返還式により全部解消。潜水艦基地隊、水雷長氏本芳登少佐着任、森本大尉は横濱府となる。第六潜水艦基地隊宿舎の改造につき上申打合せをなす。

六月八日(火)晴、本日もルオット巡視、午前三時潜水艦基地隊に行き電報案作成す、發電、午前五時三十分大原丸にて出発したる宛約三〇分にて浸水し初めたるにつき引返し、愛国丸(真珠船)に乗り午前七時再び出発、機力と帆力

にて午後一時ルオット島に着く、警備隊派遣隊本部に至り、それより火点・電探・西砲台・兵舎等を巡視す。終つて、第二十二航空戦隊司令官吉良少将を訪問す。夜准士官以上及び北村陸軍少佐などと共に会食。宿泊。

六月九日(水)晴、午前三時東砲台を見、教練を見、東火点に至り、巡視、終つて准士官以上を集め訓示す。次で近藤部隊(航空廠)を訪問、次で附近火点を見、午前八時第二清愛丸にて出発、午後二時クエゼリン本島着、夕食後阿部司令官を訪問報告をなす。

六月十日(木)晴曇、スコールあり、午前三時北砲台の訓練を見る。新設機銃陣地を見、南電探に至る、機械の能率の發揮も、結局人によることを痛感す。午後通信隊発信所のあるエニブジを巡視す。山砲一門・十三ミリ連裝機統一基あり操砲を見る。夕司令部に行く。

六月十一日(金)晴午前エビゼの航空隊(水上機)を訪問す。司令の案内にて島内の施設及び防備設備を見、司令部を訪問す。午後工事中の耐弾式彈薬庫を見る。新道路本日より着工。夜映画あり。潜水艦基地隊副長十日付にて交代

六月十二日(土)晴、午前三時十分北電探故障箇所を見る。手入不充分と認む。元來魚雷發射管を利用して作りたるものなれば、終日終夜の運転に堪えざるもの如し。午前クゲジガエンの工作部を見る。隣のエビオオーゼに施設工事中の油タンクと共に重要施設防禦

(9頁四段目に続く)

英靈にお守り頂いた私たち

千葉 秀夫

私どもがあつた苛烈なウオッゼ島の戦場から無事に帰還できたことについて、この機関紙にお取り上げ頂けましたのは私どもにとって何よりもありがたいこととございませう。生来無信心の私が、霊の存在を信じるに至ったのはウオッゼ島以来のことでありまして、この信条は一生運ぶことあるまいと思ひます。

ウオッゼ島の戦場については前号に記した通りですが、昭和十九年二月十三日、敵B25八機が低空爆撃をかけてきた時のことです。至近距離からの一発が不幸にも第八〇二海軍航空隊本部建物に直撃科裂し、鴨遊佐夫司令、村上信一主計長外隊員十数名が壮烈な戦死を遂げられ、三十数名が負傷いたしました。

主計隊長であった私は、生き残った隊員達と共に戦死者の御遺体を

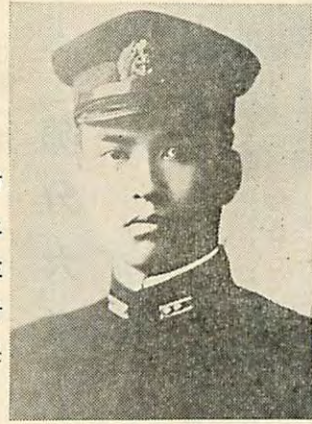
を本部の裏手に埋葬し、毎朝おまいりをしておりました。

十九年七月頃になりますと、食糧らしいものは全く無くなり誰もが体力の衰弱の為、私共の居住区から墓地迄の十分間の距離を歩くことが困難になってきました。

そこで、分骨を私共の居住区の近くにお移して分墓とし、朝夕おまいりをつづけました。

日本をお守り下さいますよう、そして隊員の武運に加護を垂れ給えと只管お祈りしたのでございませう。その頃夕方になるときまづ敵艦が島の周囲に近よつてきて二時間程の間、所かまわず砲撃を始めるのです。時には深夜に及ぶこともありました。

ある夜例によつて艦砲射撃が始められましたので隊員五、六名と防空壕に飛び込んで射撃の止むのを待っていました。



村上主計長

防空壕といっても、掘った深さは一米位、その上に椰子丸太を並べトタン板を敷いて砂を三〇〇程位盛り上げただけの至つて簡単なもの。命を托するに足るものではありませぬが栄養失調の体での農耕の疲れで何時の間にか皆ぐっすり寝こんでいました。

やがて朝、不気味な程

に静かな朝でした。防空壕から出てみんんで新鮮な空気を吸い込み乍ら思い切り両手を伸ばしたとたん「ウワー」と異口同音に驚きの声をあげました。

私達がぐっすり寝入っていた防空壕の真上に、不気味な三六機砲弾(戦艦山城の主砲と同じ)がそのままの姿で乗っけているではありませんか、一同ホッとしましたが時限砲弾ではとの心配から近寄らないことにし、別に防空壕を掘って過すこととしました。

五日たち、十日たつても炸裂しませんが、繩をかけ棒を通して静かにかついで海に棄て終つたときは全身の力の抜け去つた思いをいたしました。

又ある時の空襲で防空壕のすぐ近くに落され、丸太に顔をぶつつけるやら全身砂をかぶるやらサンザンな目にあいました。間もなく爆音が去つたので外に出ようとしてビクビクしました。出口のソバに直径十米位、深さ八米位の穴がしかも連続して三つもあけられていたのです。恐らく二五〇班級の奴と思はれます。

その時私は「司令や主計長などの英霊が守って下さるのだ」と感じ、隊員達に話したところ皆同じように感じたことと、その後は度々このことを語り合いました。その頃から敵は兵糧攻めを始めました。日本各所の補給は全く絶え、食糧と名のつく物は一つ無い有様で、露命をつなぐものは私たちが耕作した畑の南瓜、唐もろこし、こうりやんなどでした。物量に物を言はせる敵はこの畑の爆撃を始めたのです。

一発で三十坪位が吹つ飛んでうのです。あの小さな島の隅から隅まで落した爆弾、焼夷弾が、不思議にも私共主計隊の畑では一発も炸裂しないで、皆不発のままこるがうつたのです。

勿論私共のお移したお墓ははげしい爆撃にもかかわらず最後迄作つたときの姿で、隊員の供える野花でキレイに飾られておりました。

村上主計長は常日頃私に「この戦争を勝ちぬくには隊員の体力が何より大事である。国民全部が困るのだから我々の食糧は我々の手で生産しよう。栄養失調の体で戦闘はできないから」と言はれ隊員耕作の畑の出来工合を何時も案じていました。

ある時、一尾六十疋程もある大きな「エイ」が二尾もとれました。小魚を追って岩の間に入り、潮が引いて帰れなくなったのでしょつ。小鯨の群が砂浜の上にあがつているのに出遭つたこともありました。全長七米もある鯨が流れついたらときは心から「助つた」と思いました。空襲や艦砲射撃の間をねらい、衰弱しきつた体で鼠や喰べられそうな雑草を探し廻つていた私共にとって、右のような贈りものはとても偶然のものとは思えませんでした。

右の外にもこのような例は沢山あり、英霊の御加護を体験したのでございませう。

今の科学で説明できないものを凡て迷信とか、非科学的とか言つて排斥する風潮がありますが、私は自分の体験から「霊」の存在を

信じて疑いません。私共が今こうして生きていられるのは、全く靖国の神々の霊のお陰であることを信じ感謝しております。

(註) 筆者は厚生省援護局審査第二課勤務)

会員だより

(静岡県) 父 永井 民蔵

去る昭和二十年一月ウオッゼ島にて若い生命を捧げた長男真の最後の地、なつかしい島の霊砂を今手にして誠に感謝新なるものを禁じ得ません。老母も一昨年病没いたしました。生前にこの霊砂を拝し得ましたならばどんなにか喜んで呉れたことだったでしょう。然し乍ら本日(一月三十日)亡母の三年忌を行う事を親族共々計画致し居りました。昨二十九日ウオッゼ島の霊砂を郵便にてお届けいただき、亡母の法事と共に供養出来得ました事も何かの因縁かと誠に有難く、感激を新たにしております。私共といたしましては亡母の霊と霊砂共に法要し、丁重にお墓にお祀りして今後の仏祭に心掛けて行きたいと存じます。私も老令七十歳、健康とはいへ、長途の旅もかなはず、東京にての集会及び祭典には参加できませんが、私共が霊砂を拝して感激した喜びを同島に散華した多く御遺族の皆様には味はっていたらしくやう。今後共に御努力いたさじたいと存じます。親は子に、子は孫に承け継いで、外地での戦死、戦傷病死の、全霊の安らかならんことを心からお祈り申し上げます。

|| 遺 作 ||

「随分大きな島」(3)

— 兵曹長衛藤二六殿日記 —

昭和十六年

十月八日

起床後直ぐ入浴、清々しい気持ちで入港を待った。予定よりも一時間も早くボナベ島に入港できたことになる。とても感じがよい。トラックなどは問題にならないほどあらゆる物資が豊富そうな島だ。しかし雨の多いのは世界でも有名だそう。兵舎など別に設けられていない。そこで船の準備の終るまでの幾日かを教会堂を仮住居とすることとなった。外人の姿や店もほつぽつ見られたし、中等学校らしい建物も見え感じがよい。

何となく島のような感じがなく大陸的な感じを与えられる。海の見えない森の影など歩くと内地に居るような気もするし又漢口の郊外を散歩したときと似通った感じも起きてくる。

この島には川もあり滝もあるそう。静かな教会でボナベの第一夜をすごす。雨は多いが、一方とても涼しい。

十月九日

人々の口にするように実際雨が多い。晴れた空を仰ぐのは一日に何回もない。昼間教会の周囲を掃除する。勤労奉仕のような気がする。夜本島における最初の外出が許され四、五人で散歩に出る。店も多し物資も豊富だ。トラック島では到底見られない自転車屋とか

文房具屋それに一寸した書店などあるのには驚いた。島民も邦人も皆なつかしきみをもてる気質をもっている。混血児も随分見つけた。

この島にもう少し陽気な文化が輸入されたらそれこそ夢の国を実現することができたらうとつくづく思った。スコールを避けて洋服店に入る。綿類は内地と同じくスフ混じりのものばかりらしい。

十月十日

午前中少しも雨を見なかった。やはり常夏の国には、スコールがないと気の抜けた気持だ。教会の前の島にナツペなんだろう。小さな若菜が行儀よく頭を並べているのが見える。地味が肥えているのか、とても上出来だ。

今少し日本人の南洋開拓が早かったら本島も自給自足が充分出来るようになっていた筈なのに。こんな光景を見ると歩みののろい民族に少し憤りさえ感じさせられる。

十月十一日

午後半ば上陸許可。あかるい中にこの間歩いた町をあるいて見る。昼見てもとても落付のあるんびりした町だ。果物の缶詰がほしくて随分さがしたがトマトの缶詰があっただけ外何もなかった。今日は幸いに煎餅を少々手に入れることが出来た。約一月ぶり菓子らしいものに咽喉をならした。夕食後劇場に映画鑑賞にゆく。随分

昔のものだったレコードが聞けて楽しかった。

十月十二日

曇り勝な空だが案外雨がこない午前雑業午後は休業。然し〇〇とかで外出は取止め。まだ気候に慣れないためか、作業のときは元氣一ぱいの人々も、ゆつくりやすめるときとなるとぐったり軀を横にしてしまふ。別に考えることなし見るものもない。そしてこんなに

遠い椰子の木の下に居るのは事実だが、不思議に平凡な感情だけ残る。もつとすぐれた才能のある人ならば土人の風俗に、空の変化に種々詩情が湧くのだらうに、つくづく自分というものに、物足りなさを感じられてならない。本をよんでも、日記をつけても少しも落付けない。雨が多いせいも夕方なほど襦袢一枚では寒む気を感じる。

十月十四日

午後は道路工事手伝いの作業。作業の帰りに谷山、村山、上田原の諸氏と相談の上かつをの刺身を求め夕餉の膳をかさつ。あまり新しくはないがとても御馳走だった

十月十五日 佐世保を立てからそろそろ一ヶ月目。早いものだ。一ヶ月も流浪の旅を続けていると故郷の消息や友の近況が知りたくなってくる。郷愁で奴なんだろう。

十月十七日

神嘗祭。〇七四五雨天のため一兵舎にて遙拝式が行われる。今日は一日中物凄雨だった。何も考へることもなし、故郷の妹に便りを一通書いただけで一日をほんやり過す。

十月十八日

靖国神社秋季例大祭。この日長くも天皇陛下靖国神社に御親拝あらせらる。サイレンと共に、我々は教会内の仮兵舎で黙禱を捧げる。誠に有難ききわみなり。昨日のニュースで近衛内閣の総辞職が報ぜられた。大局はどう変わるのか、小さな一国民の胸にも心配の色漂う。

十月十九日

今日のニュースで内閣成立が報ぜられた。内閣総理大臣陸軍中將東条英機閣下。

十月二十三日

午後外出許可。いつもと同じ小さな町を同じコースで散歩した。ただ町というよりも部落と云った方が適当な表現だと思へる程の処を歩くだけのことなのだが、然し一度でも歩いて見ないと気がすまない。おかしなものだ。途中半屋を見つけて這入ったが甘いものがないボナベでは、いもが唯一のご馳走だ。又と得られない絶好のチャンスとはかり腹一ぱいつめこんだ。人は誠に情ない光景として人を見るかもわからないが、然し実際のところ現実の風景だ。今日はどうしたのか日頃なら、どんなに願ってもない饅頭までに豊富にありつけて全く嬉しかった。というとか何だか露骨だが。

夕食後は一同連れ立って映画に出かけたので、これをやめて常盤一機(註。一等機関兵)と二人で久し振りにカフェーなるところにゆく。酒とかビールとかは全然なかったが泡盛だけは豊富だった。一本二本と重ねている中に遂に行足がついてしまつて再び小さな町ま

で下りてゆく。ここでは豊富であろうと思つていた酒が案外少ないところかやはり全然なかった。幸うじて某店で泡盛を一本づつ飲めただけだ。最後に這入った「南海」という看板を出したカフェーらしいところでは誠にインチキなウイスキーを呑まされて、そのため常盤君はついにびた形になつた。生も少々よつばらつた形になつた。然しここで島の者とかいうオッサン等に大いに歓迎されたことだけは忘れられない印象をのこすことができた。兵舎に帰つたのは九時半頃だった。帰り道ドブに足を突込んだらしく朝起きたとき靴は惨憺たるものだった。

十月二十五日

二十七日出帆の予定と聞かされていたが今日の話だとまた延びて二十九日過となるらしい。何日になるのかさっぱり判らない。今日までとどまること十八日間随分長いものだ。乾燥期に入ったのか五日間一滴も雨が降らない。タンカの水が明日までもてるかどうか判らない有様。雨を唯一の頼りとする島では、雨が降らないとはこれほど困ったことはない。この島は雨の一番多いところと云うが他の島々はおして知るべしだ。

十月二十六日 午前中洗濯が許された。軍服一着だけ洗う。昼まで時間があるとなかなかどうして素人ばなれた人のみだ。午後アルゼンチナ丸が入港した。明日ヤルルトに向かうというので交渉してみたところ便乗できるというので愈々明日出発することに決定した。(つづく)

「軍事郵便貯金払いもどく」のごつと

環礁3号10頁でお知らせした五八二〇名の郵便貯金の調査について、郵政省から四月十日に第一回の結果の御通知を受けました。約半に相当する一、八三四名の調査の結果確実な該当遺族二九九名、多少疑問あるため厚生省に再調査を依頼したのも二九二名とのことでした。

統一して五月十日更に半の調査の結果、正當な該当遺族三六〇名、厚生省に調査依頼三四四名、更に六月八日残りの半中該当者三二〇名、厚生省に調査依頼三一三名との御通知を受けました。結局一九二八名について目途がついたわけでありました。何れ郵政省から直接該当者へ御連絡ある筈のところ遺族氏名や現住所が戦死公報送達当時のものであるため、正當受取人に届かない怖れがありますので本会から、これらの方全員に現在の御遺族名と現住所を問合せるハガキをお送りしました。(今年作製の会員名簿のついている四十三名の方には出してありません)

会員だより

(静岡県) 妻 坂田 ひな

本日は色々とお親切なお便りありがとうございました。クエゼリンと聞くに心のつながりの様なものを感じなつかしく、どんな島

かとあれこれ思いをめぐらし色々とお苦勞なされた兵隊さんの為彼の地にぬかづき、心から御仏の冥福を祈りたい思ひです。又この度は色々とお世話様になります私共の事を忘れずにこの様に下さる皆々様の御努力には嬉し涙で胸も一ぱいです。これも世の人々や亡き御仏の慈悲のたまものと有がたく手を合せ深く心に念じております。振りかえってあの悪夢の様

な毎日夢中で一生懸命子供のために生活とたたかいた乍らよく生きてきたものをつくづく思ひます。お蔭様で三人の女の子も無事成人いたしましたして二人嫁ぎ、今は娘と二人暮しです。時々来る孫のおしやべりでやつと笑ひを取り戻しているの頃です。それで貯金のお金も頂いたも同じ思ひですから僅かでしょうが何卒会のお役にでもお使い下さい。そしてせめての慰みに靈砂お手数でもお送り下されば嬉しく存じます。かしこ

(山形県) 兄 長谷川新二郎
前略 青葉の候となりました。遺族会本部の皆様ますます御清栄大慶に存じます。

さて本会の懸命な努力のお陰で終戦後すでに二年になりますのに、郵政省もなお調査をおつづけ下され、当時の戦死者である私の弟長谷川新之助の積立てた貯金のありますことが判りましたとか、夢のような気がいたします。本会も郵政省も定めし一方ならぬ御苦勞をなさったことと存じます。仰せに従い戦死者名、現存遺族名、

続柄、現住所おしらせいたします。よろしく御取計の程お頼み申上げます。(クエゼリン戦歿者)

(広島県) 妻 迫 コムラ

先日は御親切なお手紙戴きました誠に有難く厚く御礼申します。逸次が戦死する前に同封の手紙が来ました。もうあと一ヶ月もすれば帰られるようになって戦がひどくなり、こちらから幾度便りを出してもあちらに着かなかつたようです。私達も分家をして間がありません。長女が六年、それを頭にして、四人の女の子ばかりを抱え、農業もほんの一反あまり、どうして切り抜けて行こうかと思案いたしました。そこに戦死の公報が参りまして、私の悲しみは今思い出して並大抵ではありませんでした。一年余り泣いて暮しました。でも今では子供も大きくなり、私も生きぬいてよかったです。国からの年金もいただいたておりますので本当にも難く思っておりません。次にお手紙に書いてありましたので、甚だすみませんが、ルオット島の靈砂少しでよろしくごさいますから御面倒でもお送り下さいますようお願い申し上げます。主人はもと広町の航空廠に大工として働いておりました。

別封 時下寒気の候と相成つて来

ましたが其の後意外なる御無音に打過ぎました。家内一同如何お暮し遊ばれますかお尋ね致します降而私事辛元気で職務に精勵致して居ります故何卒御安心下さい。次に妻の植付稲の刈入如何致されましたか。嘸御多忙の事と思えます。今頃は井戸の呑水は如何です

か。少々は利用出来ませうか。嘸不自由の事と推察致します。小供等は無事で大きくなって居ますか嘸お世帯の事と存じます。何卒々々小供の教育並に銃後の留守宅固く守って呉れる様依頼する。次に貯金通帳番号の手紙を二通もくわしく書いて便りを差出したるに未だ番号受取ったと云う便りが来ないが未だ到着せぬか。若し万が一正人の様に成つた場合にと思ひ貯金通帳番号を送つておきます故若しかの時には此の番号を大事にして置いて郵便局の方へ請求すれば受取る事が出来ませう故保存しておきなさいよ。番号次の通りです。軍事郵便貯金通帳番号 鑑いか二四三七三号です之は任地の方です。それから工廠の方のが少々ありますから通知しておきます。一く宇七七〇九二号です。到着次第急ぎ番号受取ったと便り下さい。次に井戸の水が今に出ないとの事嘸不自由であるうお父ちゃんが帰宅したらすぐ出る様にして上げますからそれ迄待つて下さい。早く帰つて武ちゃん富ちゃん幸ちゃん等の顔が見たくてなりませんよ。皆元気でいて下さい。

では之でござんら
先は寒さ折柄皆様御身御大切に。
一月二十八日 迫 逸次

(六頁より続く)

を考ふる必要あるを痛感す。水偵一機不時着一名死亡、阿部司令官を訪問し、先日よりの視察に基づき附近島嶼の防備につき、改正意見を述べ。

六月十三日(日) 晴、午前三時三十分南地区に至り彈薬庫の適當なる位置なきやを探がす。午前七ケジに行く。水雷艇が一時間要す。各機雷庫を見る。クエゼリン環礁の各水道は潮の干満による潮流急にして、二〇ミリの位の繫留索にては永続し難しとのこと、水道に臨む見張所を見る。防備のことを考案す。午後帰る、六根司令部を訪ふ。南電探、北と同様の故障を起す。夜掌機長を呼び、意見を聞く。

六月十四日(月) 晴午前三時三十分南電探を見る。午前七時五分水偵、キヨ水道の三〇九度十三里に敵潜を発見、攻撃中、神光丸出動(後にこれは鯨なりしこと判明)。陸軍進駐につき建築すべき兵舎四棟の繩張りなす。また南砲台附近新道路付け換えは明日より着手のこととす。

六月十五日(火) 晴、午前三時四〇分森本大尉の出発を見送る。潜水艦基地隊の九二式魚雷室は意見通り別建物として建築する旨通知あり。午前七時三十分中攻五機来る。これを目標に砲台教練をなしつつ着陸状況を見る。午前八時三十分山岡丸艦長来訪。午後南砲台附近の道路行ずを見る。然るに早くも一日ならずして終了し居れり。その速なること、海軍式にて爽快言わん方なし。

(駐) 着任後約一カ月にて、ク

エゼリン環礁、各部に散在せる揮下施設を一通り巡視し、勤務各員の志気旺盛喜々として勉勵なる様を見て余の任務も緒に就きたるを覺え、着任の章を終る。

本会三年の歩み

本会は昭和三十八年六月二十九日東京都丸の内日本倶楽部において、厚生省係官及び篤志会員御臨席のもと約百名の発起人が長時間熱心な討議の結果、その集りを創立總會と決め、林茂清氏を会長として発足しました。あれから満三年の歳月が流れました。朝香名譽会長、石橋顧問、林会長の御熱心な御指導の下に役員一同力を協せ

会務遂行に努めました結果三十九年二月六日には盛大な二十年祭を行い、以来毎年二月六日に、全国から多数の会員、篤志会員が靖国神社に参集し、厳肅な慰霊祭をつづけまいりました。

発足当時はクエゼリン本島の六七〇〇石柱を対象としましたがが翌三十九年にはルオット島、ブラウン島即ちマーシャル諸島中の玉粹三島が対象となり、四十年にはウオッセ島の御遺族が加入、更に本年に入り対象をマーシャル諸島ギルバート諸島全域に拡げその対象も三万柱に近く、名称もマーシャル方面遺族会と改めるに至りました。

役員全員は、会員皆様の温かい支持と任意、随時の浄財の御寄贈による運営資金の援助にお報いするため、篤志会員諸賢の心からのお力添えとご鞭達をいただきましたつて会務を遂行しております。

昭和四十年一月一日から二年二回機関誌「環礁」を刊行し、本会運動経過はもとより、戦況の説明、

南洋方面の実態、関係各部隊に米軍各方面との接渉、会計報告等を明記し、会員の皆様に御知らせしてまいりました。

環礁については一応一万二千柱の英霊の遺族にお送りしました。發送しても戻って来ないものは届いていないと思っておりますが、御知らせ下さらない方には、その後の發送は致さないことにしております。遺族会というものに好感を持たない方又は寄附集めと誤解なさる方もありますので無理もない事ですが、現在交通を交わしているのは二千余の会員であります。

米側と再三の接渉の結果、昨四十年十月には自衛艦あまつかぜによりクエゼリン、ルオット、ウオッセ三島の靈砂が厚生省に送られこれを遺族会が載き御希望の会員に墓所の写真とともにお届けしました。

我々の念願が米國に通じ、近い将来現地に建碑の望もつきました。その碑の中に靈壘を納める計画を進めております。このため環礁4号は役員協議の結果再び全会員にお届けすることにしました。

昨年十一月末までの本会の動きは既刊の環礁に詳細記載してありますので本号はその後の経過を記載いたしました。

各号とも一部五十円（外に郵送料）でおわけいたします。今回は月日を逐つて経過のあらましをお知らせすることにしたします。この半年は米國側との交渉によって展開したものが多く、従つてその関係記事が多いのですが、何れもお互い関連のある内容でありますので①から⑩に至る項目是非よく御覧下さいませようお願いいたします。

① 十二月十八日

サイパンの高等弁務官宛本会から左の内容の書簡を送りました。

（内 容）

貴官がクエゼリン駐屯司令官の委託により本会に送られたクエゼリン島、ルオット島の日本人墓地写真は、十月一日確かに受領しました。幸いそれから一週間後の九日には自衛艦あまつかぜがロスタンゼルスで依頼されたクエゼリン島等の靈砂を搭載し、横須賀に入港本会に引渡されました。戦後日本人立入の許されない地域のものであるためNHKはもとより各テレビ・ラジオ又主な新聞に掲載されたほどでした。私たちの遺骨に對する考へ方はこれが普通なのですが、貴國の人々にはこの気持が解せなかつたかも知れません。

我々は遺体のない場合は、生前とつておいた髪や爪を遺体の代りに墓におさめる習慣があります。それもない場合その土、砂でも大切に扱います。今回靈砂と墓所写真を同時に受取つた遺族の感激ご想像頂けることと思ひます。

現在クエゼリンにゆくことができない事情は判りますが、二万の全遺族が熱望するところですから

宿泊その他どんな条件でも従う用意がありますので早い時機に訪問できるように研究斡旋方お願いいたします。

② 十二月十八日

クエゼリン駐屯司令官宛本会から左の内容の書簡を送りました

（内 容）

貴官からサイパンの高等弁務官に委託されたクエゼリン島、ルオット島における日本人墓地の写真は十月一日受領しました。（註）この次にサイパンの高等弁務官あて書簡の内容の五行以下末尾までの全文を書きました）それまでの間せめて次のことを御取計い願ひたいと思ひます。

一、マーシャル諸島の各島における日本人墓地の写真と砂を送りたいこと。砂は遺族一人に二〇グラムづつ分けるとしてクエゼリン島一〇〇キロ、ルオット島二四キロ、ウオッセ島三〇キロ、ブラウン島三七キロ、ヤル

一ト四・五キロ、マロエラップ島一・二・六キロ、ミレ島四・六キロ、マジユロ島〇・五キロ計二一三・二キロ要望すること。

二、墓碑を建てること。

三、クエゼリン島とルオット島に貴部の手で墓地を作られ、誠に感謝にたえませんが、更にその中に英霊各位が幼い頃から親んだ日本の草花を咲かせたい。種子を送れば育てて下さるか。

③ 十二月二十日
サイパンの高等弁務官及びクエゼリンの司令官にクリスマスカードと年賀状を送りました

（結 果）
何れも鄭重な礼状と年賀状を会長あて送つて来ました。特にクエゼリンからは、会長の年賀状を最も重要な掲示板に掲げ全員に示し好感を与えたところが書き添えてありました。

④ 十二月二十一日
靈砂帰還とかサイパン、クエゼリンとの接渉につき多大の斡旋を受けたウイリアム氏に対し、本会から、スタンダード社の小型トランジスタードと真珠のネクタイピン・カフスボタンのセットを航空小包郵便をもって贈呈しました。

⑤ 一月九日
ウイリアム氏から本会宛左の内容の礼状が届きました

（内 容）
十二月十八日並びに二十二日の貴会からの書簡を難く拝見しました。又別にスナップ写真、環礁3号その他封入された二つの別封もいただきました。十二月二十七日にはトランジスタード及び真珠のセットを容れた航空小包郵便を戴きました。小包は全然事故なく届きました。戦死者の遺族会からの贈物という理由で御心配下った税金も払う必要がありませんでした。お手紙では内容品の価格の何割かの税金を課せられるかも知れないとのことでしたが、アメリカの税関は戦死者の御遺族からの贈物というので、無税扱いでした。私は貴会からこんな貴重な贈物を戴いたことにびっくりし又心から有難く思ひましたことを申し上げなければなりません。貴会は私などにお心をお使いになる必要はな

かつたと思ひます。にもかかわらず、このような温い御芳志本当に有難く御礼申し上げます。

遺族会すべての方々に特に林会長様に何卒私のこのお札の気持をお伝え下さいますようお願いいたします。さてこのチビ(註・tiny・極小という意味で、贈ったトランジスターの愛称として彼が選んだ言葉)即ちこのトランジスターは、実は敏感です。調子もよく、良い音をもっています。夕方などオックスナードの書斎で一五〇〇哩はなれた放送を大きく、鮮明に聞くことができます。近くの人々や又友達に見せませんが、このチビを見て心から驚き、誰もがこんな小さなそして敏感なラジオを見たことがないと言っています。

私は真珠のセツトを正月はじめに使いました。これまた誰もが美しい光沢に驚きました。私はとても得意でつけて歩き廻りました。頂戴したスナップ写真や環礁の総てが御もつともよく判りました。特に三笠艦上での靈砂引渡しの光景は感涙に堪見しました。私にとつて、日本語を読むことは、実に実にむづかしく、了解するのに大変な時間がかかりました。巻頭に石橋元首相夫人が母親として書かれた「和彦の想い出」には心を惹かれ、そして動かされました。御心中お察し申しあげます。

私はクエゼリン司令官とサイベシ高等弁務官には早速書簡を送り、あなた方の念願なされることを、一層よく説明いたします。私はあなた方が要望されるクエゼリン島等からの追加の砂が受取

れるよう、又建碑の御希望が実現できるようお祈りしております。重ねてお詫び致さねばならないことは充分な靈砂を差しあげられなかったことでもあります。あの砂は、私の友人に頼みクエゼリン島から運びましたが、飛行機で帰ったため、充分に持つて帰れませんでした。あまつがぜに搭載して運んで下さったことも、菊池艦長の格別な御親切によるもので日本の自衛隊の、戦死者に対する鄭重な御取扱いは頭が下りました。重ねて貴会の深甚な御親切に對し心からの御礼申し上げます。

④ 二月六日 靖国神社において慰靈祭を行いました。本年の参拝者は、四一三名でした。九段会館に宿泊希望の方が五日六日も三十余人ありましたので本部役員中三、四人が御世話役に泊りました。既に何回かお目にかかった方々も多く、初日からずでになごやかな雰囲気でした。六日は午前十時半拝殿に参集し修祓の後例年にも恵まれました。その上天候にも恵まれました。

林会長の祭文(別掲)のあとと四組に分かれ本殿に昇殿参拝しました。NHK素人のど自慢にアコーデイオンでおなじみの新井英宰氏の伴奏によって「ふるさと」と「海行かば」の二曲を全員で献歌しました。四頁の会員より中小住竜様のたよりを御参照下さい。慰靈祭後九段会館大食堂に移り昼食をしました。会則変更、会の法人化の審議、古賀副会長の退任村上

新副会長の新任等討議、紹介がありました。また本年は新たにウオツェ島遺族の新入会員多く、このため同島で従軍し帰還した十葉秀夫氏の戦況講演は会員の御満足をいただきました。名残を惜しみつつ、午後三時終了の本年の行事を終えました。

① 二月十八日

クエゼリン駐在司令官から本会宛左の内容の書簡が届きました。クエゼリン島の貴会々員の慰靈のための渡航は陸軍省で許可が出ません。しかし

1. クエゼリン環礁にある日本人墓地に日本の花を咲かせて英霊を慰めたいという御希望は、種子さえ送って下さいれば、それを蒔いて御祈りに副いましょう。
2. クエゼリン環礁の砂一〇〇キログラム御入用の件は、御希望どおりできます。
3. 墓碑建設のため船便を日本まで回航することは私達の権限ではお引受けできません。しかしもし墓石を送って下さるならば御希望の場所にお建てしましょう。
終りに私共の職権はクエゼリン環礁(註・ルオット島等を含む)だけに限られております。従つて、マーシャル諸島中他の島のことはサイベシの高等弁務官に交渉して下さい。
⑧ 現地墓地に蒔く草花の種子選定について
珊瑚礁しかも赤道直下の現地には何を蒔けば咲くのか本部では見当が付きません。クエゼリンの司令官は種子を下されば蒔きますと

林省の官房笹川事務官を訪ね事情を説明し教乞いました。同事務官は同省園芸局長に取次がれ、同局で研究・調査して下さいました。農林省でも太鼓判を押すだけの資料はないが、とりあえず蒔いてみてからというので葉鶏頭(二種)コスモス(三種)石竹、千珠菊、朝顔(三種)金蓮花、松葉牡丹、向日葵、百日草(二種)計十五袋の種子を準備して下さいました。本部では月見草もほしかったのですが、種子が得られませんでした。

⑨ 三月三十一日 クエゼリン駐屯司令官宛本会から左の内容の書簡を送りました(内 容)
二月十八日附の貴書簡は二十六日に受領しました。
一、日本人墓地に草花の種子をまくこと
二、島の砂を送って下さること
三、墓碑建設の作業はお引受け下さること
この三つを快諾下さったことを深謝します。早速ですが今日はこの中第一と第二についてお願いいたします。

一、我々は熱帯地方の珊瑚礁にどんな草花が適するか知りませんので農林省の園芸局長に尋ねました。農林省でも自信のある推薦はできないが、昨年貴司令部から送られた墓地の写真から判断して適当と思われる十五種の種子を選んて下さいました。これは試験的に送ったのですが、それぞれの発芽状況や育ち具合や花の様子を写真なり写真なり或は8ミリのフイリ

ルムによってお知らせ下さいませんか。その結果により何程でも御入用だけお送りします。
二、クエゼリン本島のもの一〇〇キロ・ルオット島のもの二四キロ希望します。土壌の輸出入は日本の法律では面倒なのですが、乾いた海岸の砂なら問題はないようです。もし貴国の軍用船または航空機で日本に送って下さるならば、どこかの港でも、空港でも本部から受領に行きます。一般便で送るとその送料が相当多額となり、場合によっては本会の支払能力以上になるかもしれません。このため予めその送料をお知らせ願います。

我々の会は年に二回機関誌「環礁」を刊行しています。環礁とはBIRTHです。次号は六月に発行しますが、これにのせるためあなた方の写真を送って下さい。我々会員は慰靈のためクエゼリンに行きたいのですが、今は貴国法律によって許されない由当分は致し方ありません。もし出来たら戦死者達が好んでいた酒や煙草・菓子など靈前に供えたいと思ひます。送る方法を研究し、何とかして送りたいと思ひますがその節はよろしく願います。
最近一戦死者の母堂枝光たいという方から次のような手紙をいただきました。「私は戦死者典郎の母です。日本人の墓地の写真ありがとうございました。あの時残念無念と歯ざしりしながら散つて逝った若者達でありましたように、この人達も永久に平和であれ祈りなりましたのでしようか。墓地の様子を見ますと戦の跡など少しも見受けられないようです。私も

クエゼリン島が二度と戦場と化する
ることなく、いついつまでも息子
たちに、静かな眠りを続けさせて
いただきたいと心から願っております。

⑩ 四月二十三日

サイパンの高等弁務官宛本会か
ら左の内容の書簡を送りました

(内 容)

昨年九月二十三日附の貴官の書
簡に従い、クエゼリン駐屯司令官
に墓地についての要望を送りまし
た。(その写は貴官にもお送りし
ておきました)それについて二月
十六日附で司令官から親切な返信
をうけました。当方の要望はすべ
てかなえて下さいましたが、同司
令官の権限はクエゼリン環礁だけ
なので、それ以外の島のことはや
はり貴官に直接要望するよう示し
てありました。私達遺族は内親の
者の戦死した島を訪れ、遺骨を取
り、慰霊の祭をしたいのです。朝
香宮殿下も元首相石橋湛山氏はじ
め二万の遺族は誰もがその愛児の
戦死したあとを弔いたいのです。
然し現在では貴官の法律によって訪
問できないことは貴先便によって
やむを得ないと思いますが、渡航
を許されるまでの間せめて、緑あ
る砂を受け或は墓地の写真を見た
いのです。クエゼリン駐屯司令官
の権限がクエゼリン環礁だけとす
るならばブラウン島、マロエラッ
プ島、ウオッゼン島、マジユロ島、
ミレ島、クサイ島、ヤルト島、
タラワ島、マキン島等のことは誰
にお願いしたらよいのでしょうか
その御氏名、宛先などお教え下さ
るようお願いいたします。

⑪ 五月九日

サイパンの高等弁務官から本会
宛左の内容の書簡が届きました

(内 容)

四月二十三日附貴会からの書簡
拝見しました。朝香宮殿下、石橋
首相閣下等が大戦中戦死された肉
親の追悼慰霊のためマーシャル諸
島を訪れたいという貴会の御希望
はかなえて差し上げられると思いま
す。このような御訪問の御手伝い
をさせて頂いていただくことは私等の光
榮とするところでありますと前書
し

- 1 ブラウン環礁は目下米空軍の
管理下にあるので相当の制扼が
加えられるでしょう。
- 2 クエゼリンには上陸すること
は勿論飛行機で立寄ることも許
されないのでしよう。
- 3 マーシャル諸島行政の中心で
あるマジユロ島が最も適当であ
り、ここを基地として御希望の
島をまわることにされるのがよ
いと思えます。マジユロは海上
交通の便もよし、宿泊の設備も
あります。
- 4 マジユロまでは当局の所属船
で行くことを必要とし、帰りも
同じ方法によって下さい。

註 文章は至って鄭重であり渡
航申請用紙を同封してあり、
所要事項記入の上サンパンの
局へ送付するよう指示してあ
りました。

⑫ 五月十五日

横浜の運送会社から本会あてク
エゼリンから海岸の砂が到着した
から受取るよう通知がありました。

⑬ 五月十八日

クエゼリンからの霊砂受領

本部から浮田幹事と岡野監事を
横浜に派遣し、横浜税関、植物防
疫所の手続を了え、無事受領しま
した。内容は11頁⑨、本会の要望
とおりクエゼリン一〇〇キロ、ル

当面の計画

現地訪問、慰霊碑建立、霊壘奉安

① 五月二十五日

臨時役員会議開催

サイパン高等弁務官の書簡、砂
の到着等に関連して会の態度を定
めるため靖国神社靖泉荘において
役員会議が開催されました。

この会議で決定の事項は
1・本会の名称をマーシャル方面
遺族会と改める
理由、環礁3号7頁「改正を必
要とする理由」参照。更に入会
希望の方の範囲が拡がりつつあ
りますためです。

2 サイパンの高等弁務官の招聘
はこれを受けることとし、期日
人選等早急に検討、立案するこ
と。

3 慰霊碑建立の希望を実現化す
ることとし具体的企画をすすめ
ること。

本件については会員内海軍三氏
(第一石材工業株式会社々長)
に設計等お願いする。

会名の変更等本会としては重要
事項に属するが、本年二月定期総
会の際、皆様から相当重要な事項
の決定についても役員会にお任せ
下さった経緯もあり、会発展の

オット二四キロでした。要望と
り、自ら運賃を負担して届けら
れた米側の好意は、地元神奈川新
聞も高く評価し、十九日朝刊に大
きく記載されました。

② 霊壘簿の調製

現地にて建てる碑は、英霊御出身
地(四十六都道府県・沖縄・朝
鮮)産出の銘石を使用する予定で
ありますがその中に霊壘(戦死者
の御名前)を納めないと思いが治
まらないような気がしています。そ
うならばその霊壘そのものも英霊に
もともと縁の深い我々それぞれの
遺族の手によって心からの文字を
書いてそれを納めるのがよいと思
います。材料はすべて故国から送
ったもの、その中にそれぞれ肉親
の心をこめて書いた霊壘を納め
てその碑の周囲には四季を通じて
ふるさとの草花の色香を漂わ
せておきます。本号に同封の奉書
縦長の紙片は、その霊壘の用紙で
あります。紙面は狭いですが、二
万枚となりますと縦・横・高さそ
れぞれ五十種位の大きさとなりま
す。従って狭いのですが、この中
に御随意に戦死者の御本名・戒名
・あだ名愛称等何れでも結構と思
いますが、それを御両親・未亡人
・お子様・祖父母、孫・兄弟姉妹

・御親戚・友人等でお書き下さ
い。又久しく送れなかつた通信文
等お書き下つても結構です。この
小さな霊壘は遠くマーシャル諸島
に永く祀られ、供養されることで
しよう。發送準備の都合もありま
すから、お書きになりましてら
なるべく早く本部あてお送り下さ
いますようお願いいたします。

③ 所要経費について

さて必ず
起る問題は経費のことです。本会
は、篤志会員の御協力を受
け、遺族の発意で誕生し、遺族の
浄財、遺族の力で育ちました。会
費は初年度に五十円集めただけで
その後は集めておりません。任意
・随時の浄財の御送金で、為し得
るだけの仕事を続けて参りまし
た。従って今回の建碑もなるべく
任意・随時の拠金で仕末したいも
のです。二万余の会員の中には病
弱の人・老齢の方・又幾重もの不
幸を背負った方もおられます。一
口何円とか、一柱何円と定めます
と、このような方にお気の毒で
す。といつても、費用のかかるこ
とは事実ですから、御無理のない
任意の拠金をお願いしたいと思
います。本部に霊壘をお送り下さ
るか或は送金予定金額・予定時期
を予告していただくと、計画立案
上好都合です。

今のところ建設総額がどの位に
なるか、任意拠金がどの位集まる
のか、全く見当つきません。本部
では早急に一応の計画を建て、建
設と集金の様子を見比べて、無理
のない程度に進めたいと思いま
す。万一のことがありますので今
回は一応これだけおくるが、追加

が必要の場合は送ってもよい」という方は、その旨おしらせ願います。必要のとき改めてお願いいたします。

幸いにしてもし費用が残りまし
たら会の基金として会則第五条に
示す活動を継続し又将来本会が解
散の際は、会則第十七条に基き、
これを靖国神社に奉納します。英
霊を心からお慰めする綺麗な道を
歩いてゆきたいと思ひます。

○結び
以上を要約しますと次のよう
になります。

1 クエゼリン島とルオット島に
は行けない。ブラウン島行は相
当の制扼がある。右以外の島に
は行ける。

2 サイパンまでは航空便を利用
できるが、その後は統治局の船
便のみ。その所要日数は明らか
でないがサイパンからマジユロ
までは、片道二十日前後を要す
る。船待ち、飛行機待ちを考
えると全日程二カ月以上を要す
と考へるべきでありましょう。

3 碑は材料を送れば、建設は先
方が引受ける。(⑦参照)
クエゼリン島への石材等の輸送
は可能、船便で一ヶ月を要する
完成したら材料一切を米國に贈
呈し、管理を依頼することが考
えられる。

4 この際サイパンの高等弁務官
の招請は受けるべきである。
詳細は問合せ中であるが、横浜
から船便だと片道三二八ドル、

5 派遣者の人選。現地に行くこ
とを希望される方、或は人選に
ついての御意見ある方は至急本
部宛御連絡下さい。

寄附者芳名

(四二二名)

今回も多数の篤志会員・会員から寄附・拠金を頂きましたことを御報告いたします。皆様の任意の温い浄財深く感謝いたします。役員一同一層検討努力し有意義に活用致します。

(ハレン数字は寄附回数)

寄附額	芳名(敬称略)	関係
五〇〇〇〇	篤志会員その他	
三〇〇〇〇	保好舎印刷佛殿	
二〇〇〇〇	内野 大吉殿	
二〇〇〇〇	高田源次郎殿(2)	
一〇〇〇〇	十二 徳次殿	
一〇〇〇〇	有馬 成甫殿	
一〇〇〇〇	今井 一男殿	
一〇〇〇〇	十二 徳次殿(2)	
一〇〇〇〇	松本 義一殿	
一〇〇〇〇	松平 永芳殿(2)	
五〇〇〇〇	大井 裕忠(1)	
三〇〇〇〇	高橋 直助(3)	
二〇〇〇〇	石川金五郎(2)	
一五〇〇〇	父 松谷 テイ(1)	
一五〇〇〇	妻 徳川 モト(1)	
一一〇〇〇	父 沼山 重蔵(1)	
一一〇〇〇	父 沼山 長一(1)	
一〇〇〇〇	父 中島次郎左衛門(2)	
一〇〇〇〇	母 沼山 正英(2)	
五〇〇〇〇	母 宮前ハツエ(1)	
四〇〇〇〇	妹 和泉くによ(1)	
四〇〇〇〇	妹 大橋 すみ(2)	
一一〇〇〇	兄 田村賢治郎(1)	
二〇〇〇〇	妻 工藤 ハナ(2)	
一五〇〇〇	父 中村善五郎(1)	
一〇〇〇〇	兄 佐々木周造(2)	
一〇〇〇〇	父 平良 信子(2)	
一〇〇〇〇	父 浜館源太郎(1)	
四〇〇〇	妻 本堂 テフ(2)	
一七〇〇	妻 渡辺 よし(2)	
一〇〇〇〇	母 中村 繁宏(2)	
一〇〇〇〇	母 刈屋みさを(3)	
一〇〇〇〇	母 桜井ステオ(1)	
一〇〇〇〇	母 千田徳兵衛(3)	
一〇〇〇〇	父 千田 庸喜(2)	
一〇〇〇〇	父 白鳥 善助(2)	
一〇〇〇〇	父 岩淵 万助(1)	
一〇〇〇〇	父 鈴木 政明(1)	
一〇〇〇〇	兄 平形いせこ(3)	
一〇〇〇〇	妻 渡辺 雪子(1)	
一〇〇〇〇	妻 高橋とし子(1)	
一〇〇〇〇	母 熊谷サダヨ(2)	
一〇〇〇〇	妻 杉澤オイネ(1)	
一〇〇〇〇	妻 佐々木三郎(1)	
一〇〇〇〇	弟 戸堀 四郎(2)	
一〇〇〇〇	妻 若松 キエ(2)	
二〇〇〇〇	母 青野はつよ(3)	
一〇〇〇〇	妻 石井 まつ(2)	
一〇〇〇〇	妻 伊藤のもの(2)	
一〇〇〇〇	妻 大場美津子(3)	
一〇〇〇〇	母 沢井 よし(2)	
八七〇	父 小野 喜市(2)	
五〇〇〇	父 武田 喜市(2)	
一〇〇〇〇	姉 江尻 キョ(1)	
三〇〇〇〇	父 藤田 盛一(2)	
二〇〇〇〇	妻 椎谷 武雄(2)	
二〇〇〇〇	父 青木 謹次(2)	
一五〇〇〇	父 加藤 定悦(1)	
一〇〇〇〇	母 桑原 ヨシ(1)	
一〇〇〇〇	母 小林 正道(1)	
一〇〇〇〇	母 佐久間スイ(1)	
一〇〇〇〇	母 前川カツイ(2)	
一〇〇〇〇	母 丸山 四平(3)	
一〇〇〇〇	母 米田 ナヲ(1)	
一〇〇〇〇	母 高野 仙吉(2)	
一〇〇〇〇	母 中沢 フミ(3)	
一〇〇〇〇	父 高野 仙吉(2)	
一〇〇〇〇	妻 矢部 カク(1)	
一〇〇〇〇	妻 山本 チイ(2)	
一〇〇〇〇	母 宮本 スエ(2)	
一〇〇〇〇	父 遠峰 軍治(2)	
一〇〇〇〇	父 綿引 広(2)	
一〇〇〇〇	父 飯塚 義雄(1)	
一〇〇〇〇	父 小田原いく(2)	
一〇〇〇〇	妻 松瀬貞一郎(1)	
一〇〇〇〇	母 松塚 くま(2)	
一〇〇〇〇	母 横田 みよ(2)	
一〇〇〇〇	父 富田 ちよ(1)	
一〇〇〇〇	母 浜田つき子	
二〇〇〇〇	母 神山 サク(2)	
一五〇〇〇	父 川島 勝(2)	
一〇〇〇〇	妻 大橋 サク(1)	
一〇〇〇〇	父 神山 キン(3)	
一〇〇〇〇	母 佐藤 満(1)	
一〇〇〇〇	父 仲田 重蔵(1)	
一〇〇〇〇	母 三島 きみ(2)	
一〇〇〇〇	父 関口義太郎(2)	
一〇〇〇〇	妻 城田ミツユ(3)	
一〇〇〇〇	父 中西 源吉(2)	
一〇〇〇〇	母 清水ちやう(2)	
一〇〇〇〇	父 岡村 藤重(1)	
一〇〇〇〇	母 安藤 直一(1)	
一〇〇〇〇	兄 小暮 長一(3)	
一〇〇〇〇	父 志村 マツ(4)	
一〇〇〇〇	妻 野村仁三郎(1)	
一〇〇〇〇	妻 藤田 ウメ(4)	
一〇〇〇〇	妻 星 マチ(2)	
一〇〇〇〇	母 松岡ちやう(1)	
一〇〇〇〇	母 伊藤 秀(1)	
一〇〇〇〇	妻 星野千重子(1)	
一〇〇〇〇	妻 高橋 いち(1)	
一〇〇〇〇	妻 大野 輝一(1)	
一〇〇〇〇	父 実川 福松(1)	
一〇〇〇〇	妻 木村 正子(2)	
一〇〇〇〇	妻 相川 孝夫(1)	
一〇〇〇〇	妹 石橋 美季(3)	
一〇〇〇〇	姉 池田 さく(2)	
一〇〇〇〇	父 梅野八次郎(1)	
一〇〇〇〇	父 片岡 源一(1)	
一〇〇〇〇	父 小倉 留吉(1)	
一〇〇〇〇	父 鈴木 忠蔵(1)	
一〇〇〇〇	母 高橋 はつ(3)	
一〇〇〇〇	妻 高橋 京子(1)	
一〇〇〇〇	父 中野 正夫(1)	
一〇〇〇〇	妻 増田 志う(1)	
一〇〇〇〇	父 丸島喜三郎(2)	

事務局だより

○古賀副会長は御健康の都合で、高橋幹事は大阪へ御栄転のため、市川幹事は御家庭の關係でそれぞれ二年の任期を了え、役員を退任されました。永い間役員として本會のため御尽力下さいましたことを厚く御礼申し上げます。

次に村上新副会長の外幹事六人監事一人が役員にお加りになり篤志会員が一名増えました。張切って御尽力下さる方ばかり、會のため御同慶の至りに存じます。

○靖国神社みたま祭に大型献灯を奉納のこと

環礁2号の表紙で御紹介しましたお盆の献灯を今年も準備しました。

マーンシャル方面遺族會 (旧クェゼリン方面)

と墨書した大型の献灯が七月十三日から十六日まで社頭にともりつづけます。定めし英霊もお喜びのことでしょう。

○會名変更について

12頁「当面の計画」に記載のとおりウオッゼ島御遺族の参加やギルバード諸島御遺族の参加希望多く、一方マーンシャル、ギルバード諸島には既存の遺族會があります。

んため新會名をマーンシャル方面遺族會と改めることになりました。

○ルオット島靈砂について

ながらくお待ちいたしましたルオット島の靈砂が届きました。本會三年の歩みの◎参照。クェゼリンの靈砂も多量参りました。御希望の方に御頒けします。ルオット島關係で既に御申込みになったが、未受領の方、すみませんが重ねて御申込下さいませよう御願ひ申します。

○戦歿者等の遺族に対する特別弔慰金支給法

本件については前号でその内容を御紹介しましたので、多数の方から調査の御依頼がありました。この御返事は半数位しか差上げておりません。戸籍抄本や謄本をいただく等の必要があり、さばききれずにおります。該当するのではないかとお考えの方は、一応市区町村役場の關係係(厚生關係)にお尋ねになり、御納得できない場合、本部に御通知下さいませよう御願ひいたします。

○郵送料についてお尋ね

會運営費を考えすぎます結果、郵便料金不足で御迷惑をかけたことがあるのではないかと案じております。今迄そのようなことがあり

ましたらお序でのとき、本部あてお知らせ下さいませよう御願ひいたします。

○在庫品について

左記の品は本部に在庫があります。御所要の方は括弧内の料金を添え御申込み下さい。
一、環礁一号一四号各号あり。(何れも送料共一部五十円)
二、戦記一クェゼリン島の今と昔(一冊送料共百円)

内容・平和時代のマーンシャル諸島の紹介に始まり、我國防備の変遷、開戦、玉碎そして今日の南洋諸島、特にクェゼリン島の最近を現地で活躍された諸氏により執筆のもの

三、二十年祭のスナップ(10枚) 昨四十年十月あまつぜよりか靈砂引渡しのスナップ(12枚) (何れも一組送料共一五〇円)

四、クェゼリン島・ルオット島の墓地写真

五、遺族會名簿(一冊百円・送料別)

六、クェゼリン島、ルオット島、ウオッゼ島靈砂(無料) 通常払込料加入者負担の振替貯金用紙(無料)

編集を終えて

七月一日から郵送料金値上げの結果、今回の二万余通の料金は、十万円以上の差になって会にひびいてきます。本部役員一同この半月大童に頑張りました。祭文の下に来年の京都の慰靈祭をのせるなど割りつけの不手際さ何とも申わけありませんでした。

副えませんが、役員一同申しわけなく存じております。このこともあり、今回役員増加を計り會の充実を願ひいたしました。随分面倒な条件のある現地に、慰靈碑が建てられるか、夢のようにも考えていたことが、どうやら現実の問題になりそうになって来ました。

本會役員及び篤志會員名簿

幹事	山浦 信子	篤志會員	本木 光江
幹事	田添 早苗	篤志會員	松平 幸市
幹事	萩原金次郎	篤志會員	村岡 達志
幹事	佐藤 エス	篤志會員	林 幸市
幹事	国松ふみ江	篤志會員	長谷川 敏
幹事	木村 久子	篤志會員	長谷川 栄次
幹事	宇田川ヒサ	篤志會員	成田 虎一
幹事	井上 賀雄	篤志會員	中島 昌彦
幹事	秋山 正清	篤志會員	中島 昌彦
幹事	佐藤 信家	篤志會員	土屋 太郎
常任幹事	浮田 義一	篤志會員	瀬野 光久
常任幹事	村上 宗一	篤志會員	大沼 克一
副會長	加藤普佐次郎	篤志會員	板垣 徹
副會長	村上 宗一	篤志會員	有馬 成甫
會長	林 茂清	篤志會員	末広 正男
顧問	石橋 湛山	監事	橋口 昭利
顧問	朝香 孚彦	監事	岡野 正文
名譽會長	朝香 鳩彦	監事	岡野 正文